

鈴木梅子の詩と生涯

—セルパン文化の中で—

講師：詩人 西田 朋 氏

映像助っ人/詩誌「回生」小熊昭広氏

注 セルパンとは

第一書房から1931年5月に創刊された文芸・文化誌。誌名はフランス語 serpent (〈蛇〉) の意だが、編集発行人の長谷川巳之吉の巳=蛇にちなむ)、定価10銭の廉価で新風を呼んだ。当初は福田清人が編集にあたり、堀口大学、萩原朔太郎らの作品を多く掲載したが、のち35年に春山行夫が編集を担当してからは海外の作家を積極的に紹介した。エレンブルグ、A.ハクスリー、コクトー、マルロー、サルトル、カフカらを日本の読者に親しいものとした功績は大きい。以下略

執筆者：紀田 順一郎 (コトバンクより 一部加筆)

西田 朋 氏：にしだ・とも

仙台市出身、白石市育ち。白石女子高卒

日本詩人クラブ、日本現代詩人会、宮城県詩人会



西田朋氏(左)色川幸子氏原田勇男氏とともに

白石市の詩人鈴木梅子(1898~1973年)の苦難の生涯を掘り起こした評伝「鈴木梅子の詩と生涯」(土曜美術社出版販売)を、角田市の詩人西田朋さん(77)が出版した。膨大な資料に当たり、師だった詩人堀口大学や哲学者土田杏村との関係、婚家での数奇な人生を通し、封建的社会からの自立にもがく孤高の女性像を浮かび上がらせた。同書は3月、日本詩人クラブ詩界賞特別賞を受賞した。

河北新報社 2021/4/7

【日時】 2025年 4月5日(土) 13:30~15:00

【場所】 オフィス汐 仙台市青葉区大町2丁目4-10 タツミビル3F

地下鉄東西線大町西公園駅下車2分 珈琲のヴェートーベン手前

【参加費】 700円 オフィス汐 宮城県詩人会事務局 080-1809-3862